



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間の流れが分かり学習を振り返ることができるノート指導を行うとともに、タブレット端末等を活用した考えを広げ深める交流活動の充実を図る。 ・ 児童の実態や習熟度に応じて学習形態や内容を工夫する。 ・ 児童の興味や関心を大切にした授業展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブ活動、委員会活動を木曜日の6校時に設定することで、放課後の教材開発の時間を確保する。 ・ 算数習熟度別指導を実施し、児童の実態に合わせた授業展開を工夫する。 ・ 地域の環境や人材を生かした学習を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修会を通して「学ぶ楽しさを実感できる児童」の育成を目指して模擬授業(年9回)を実施する。 ・ ユニバーサルデザイン(UD)の手法を取り入れ、誰もが分かる指導を実践する。 ・ 教員の資質能力を育成するためのOJT研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科の授業に際し、評価カード等を工夫し、児童の自己評価能力を高める。 ・ タブレット端末、座席表等を活用して児童の実態を把握し、子に応じた適切な指導、評価を行う。 ・ 保護者や学校評議員による外部評価を実施し、授業改善に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校公開(道徳授業地区公開講座を含む)を実施し、開かれた学校を目指す。 ・ 大泉西中との小中一貫教育の方針の下、課題改善カリキュラムを作成し、小中連携を深める。 ・ セーフティ教室、薬物乱用防止教室、情報モラル講習会を実施し、家庭や地域で児童の安全を守る。